

私たちの町の文化財

■第9話 城山薬師町の板碑群

城山薬師町には、地域全体で15もの板碑があります。下の写真の「阿弥陀三尊来迎板碑」は、市内でもよく見かけるものですが、左下に「孝子伊津野駿河守 藤原貞次郎謹誌」とあり、俗名が書かれた唯一のものです。元号は「元亀二年（1571）」で戦国時代に当たります。伊津野氏とは、県内でも特に上益城郡を本拠とする豪族ですが、同じ伊津野氏でも三河守や山城守など多岐に分かれます。川尻南大渡の西楽寺由緒には、「始祖伊津野山城守友記が甲佐郷八十町の領主で、後に益城郡赤見村（現在の熊本市南区城南町赤見）に一寺を建立し、これを川尻大渡に移したこと」が記されています。薬師町の伊津野氏については、天正15年（1587）、佐々成政から伊津野忠■に宛てた黒印状が手掛かりとなります。この書状には「為扶助、河尻薬師町之内、田畑六段・・・中略・・・宛行迄、全可知行者也」とあります。これは、成政から忠■への論功行賞を意味します。板碑と書状の人物は、同じ一族とみられます。この他、板碑をみると、僧の名が多く、かつては伊津野駿河守ゆかりの寺があり、この地に本拠があったとみられます。現在の集落内を見ても、伊津野姓が多いことから、駿河守の子孫なのかもしれません。

熊本市文化振興課 藤島 志考氏

今から5百年ほど以前の戦国時代、尾張名古屋の織田信長家臣、佐々成政と、遠く離れた上代薬師町の豪族、伊豆野忠■との繋がりが板碑と書状に残されているとは・・・歴史を紐解くって大変だけど、面白そうだモン

